

絵巻 がつなぐ、ほとけとひとびと



令和3年度春季歴史講座

3/26 [土]
13:30 ~ 15:30

—松原市丹南の来迎寺に伝わる融通念佛縁起—

講師 阿部 美香 氏

名古屋大学人文学研究科附属
人類文化遺産テクスト学研究センター 共同研究員

画像作成：松原市教育委員会

書名	令和3年度春季歴史講座 絵巻がつなぐ、ほとけとひとびと-松原市丹南の来迎寺に伝わる融通念佛縁起-
書名かな	れいわ3ねんどしゅんきべきしこうざ えまきがつなぐ、ほとけとひとびと-まつばらしたんなんのらいごうじにつたわるゆうずうねんぶつえんぎ
編著者名	阿部 美香(あべ みか)
編集機関	-
発行機関	松原市教育委員会 一般財団法人松原市文化情報振興事業団
発行年月日	2022年3月26日
郵便番号	580-8501 580-0016
電話番号	072-334-1550 072-336-6800
住所	大阪府松原市阿保1-1-1 大阪府松原市上田7-11-19
備考	松原市民ふるさとびあプラザで令和4年(2022)3月27日に実施した「令和3年度春季歴史講座」の配布資料である。配布資料の著作権は、一部の画像などを除いて作成者である阿部美香（名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センター 共同研究員）に帰属する。なお、公開に際し松原市居都教育委員会事務局文化財課がPDFファイルに文献などへのリンクを追加している。 本講座は松原市教育委員会と一般財団法人松原市文化情報振興事業団が共同で開催したものである。

PDFファイル制作日：2022年3月31日

**絵巻がつなぐ、ほとけと人々
—松原市丹南の来迎寺に伝わる融通念仏縁起—**

阿部美香

1. 融通念仏縁起絵巻のユニークな特色と展開～「名帳」をめぐる勧進と結縁～

**鎌倉時代 正和本（1314年）**

(上巻シカゴ美術館・下巻クリーブランド美術館)

**【勧進聖良鎮上人】**

□1381～87（永徳・至徳）肉筆本

日本国六十六箇所への配布をめざし勧進。

□明徳版本（1389～92）

＊閑白二条師嗣、崇賢門院ら貴顯高僧が詞書を分担。撰写には有力被官ら武士が参加。



□清涼寺本 1414～23 室町時代

後小松上皇、將軍義持、崇賢門院（後円融院の母）染筆、公式の貴顯高僧の寄合書

来迎寺本『融通念仏縁起絵巻』

(第一の奥書き)

右本願良忍上人融通念仏根本の帳に任て注する処也、此本帳は良忍上人、嚴賢上人に伝へしより以来、明応上人・親西上人・尊永上人次第に相承せり、凡本帳に入人数三千二百八十二人也、其中に速疾に往生する人六十八人と注せり、（略）上人滅後のいまにいたるまで隨喜結縁之華雲霞のことくにあつまれり、此笠の奇特先駆をつたへきゝ給、道俗並念仏をうけ名帳に入たまはゝ今生には一歳の災難をはらひ、後生には必往生の素懃をとけ給はむ事、見証右にのするか如し、一念もうちたかひ有へからず、是を絵つにあらはす志是在家の男女に念仏往生の信心を増進せしめんかためなり、仍正和第三層（1314）中冬上旬候記之、

(第二の奥書き)

良鎮勸進文次又永徳年中勧進沙門良鎮謹言、此絵百余本勧進興行之志は、本願ひとりならさるあひた、日本國ゑそか嶋、いわうか嶋までも其州の大小によりて、聖の機縁にしたかひて一国一本二本、或は多本此絵をつかはして家をのこさず人をもらさず勧進申さむとなり、我願のことくひろめすゝめ給はむ聖、其人名帳を給て供養をとけ、薬師寺理瑠燈の下に奉納せしめて決定往生之因にそなへ、無生淨土の門をひらかんとなり、無常時をまたさるならひなれば、若存命のほとは良鎮か方へつかはさるへし、往生の素懃を遂るよしきゝ及給はゝ、當麻寺へ可被進、又各々の聖の御意あにさるへし、しかりといへとも大和州にて勧進之事に候間、施主等の所望如件、

密遣者奥齋右良鎮房為融通念仏勧進此絵六十六ヶ国各一本可伝賦、但不限毎国一本、隨勧進之儀、所望之体一国多本、忽及邊鄙蕃夷之境、可被伝之云云、此願尤隨喜之間、奉合力者也、以此善根者特資悲母、幽靈滅罪生往す極樂之恩、惣得法界群類融通無遮之益、旨趣如右、

時至徳三年（1385）十一月十七日、大和州葛下郡片岡東 中臣俊章

2、来迎寺における絵巻の伝来と掛幅絵伝への展開

□融通念仏縁起絵巻：祖師良忍上人 □融通大念仏龜鐘縁起：中興法明上人

慶長5年（1600）	『融通大念仏龜鐘縁起』、清水村道西寄進
慶長13年（1608）	「来迎寺」寺号が定まる
元和9年（1623）	『融通念仏縁起絵巻』、清水村喜兵衛、入道淨安寄進
承応2年（1653）	来迎寺の寺地が定まる。本堂建立、定寺化
	藩の準菩提寺化
文化5年（1808）	両祖師絵伝の制作開始
文化7年（1810）	本仏・二転仏が修復
文化8年（1811）	両祖師絵伝成立

* 十箇郷別時来迎寺に寄進された『龜鐘縁起』（現、喜連法明寺所蔵）の全画像、本文は、阿部泰郎「法明寺本『融通大念仏龜鐘縁起』絵巻報告」『学苑』961号に紹介。<http://id.nii.ac.jp/1203/00006742/>

〔両祖師絵伝〕



〔両祖師絵伝〕六幅目「熊野権現融通念仏和讃一軸」



〔聖教28熊野権現御示現之讃 文化6（1809）〕

（奥書）右此讃永和元年（1375）三月九日二、良忍 上人熊野本宮誠殿三七日參籠シ玉フ逃ニ、満ル十五日之曉、車内ヨリヒンスラユウタル童子、着青衣、キサハシヲ下給也。二童子忽然トシテ御座ス逃ニ、從跡八旬計ナル着白衣老僧、カシツエニスカリ忽ニ現給。亦神社壇ノウシロヨリ、山伏達トキンスヽカケシテ三百人計白洲ニ座シ玉ヘハ、段々彼老僧〔 〕へ言。汝大原良忍上人ノ遺〔跡〕ヲ伝ヘ、融通念仏■（興）シ玉事、誠以神妙ナリ。故ニ三界所有ノ諸天■（善）神冥王ノ加〔入アリ〕。爰以一卷讃ヲ汝ニ付属スルナリ。末世〔之〕衆生ニ是ヲ勧メ■（怠）シ唱ルニヨリテハ、昔大原良忍上人ノ如ク、一切衆生ヲモ漏ミサキトノ御誓約アリテ、如本社壇ヘ入り玉フ。于時良忍上人、夢ウツヽトモナリ見玉ヘハ、一巻ノ讃アリ。ウシロニハ毘沙門天王、天蓋ヲ上人サシカケ玉ヒ、裂ニ立玉ヘハ、不思議ノ思ヒコナシ、カツガウハニ鉢ジ、感應拂ヒタシツヽ、一巻ヲ披キ玉ヘハ如此文アリ。于時永和元年三月十五日、人王一百代後円融院即位四年、応安八年改元永和至文化六巳年、凡四百三十年。右和讃諸仏山來迎寺、古キ一巻有之。誠誠般之不思議記。

維時文化六邑青陽念八日書焉、河内十箇郷本山來迎寺用

3、来迎寺に伝わる融通念佛縁起絵巻の成立、伝来、発展の歴史的背景

○来迎寺本絵巻は、文亀二年（1502）に金剛佛子行慶により制作、元和九年（1600）に、十箇郷来迎寺へ寄進される。

【第3奥書】

右書写之趣者、後世披見之衆、以一念信解力、成得生極樂本懷思計也云云、
文亀式年（1502）壬戌十月十五日 金剛佛子行慶

【第4奥書】

右融通大念佛之縁起者、河州丹北之郡布忍清水村喜兵衛入道淨安、
為後生安楽十箇郷來迎寺北村宗珍西堂御代奉寄進者也、
元和九（1600）癸亥年六月廿九日

◇高橋平明「特論 諸仏山來迎寺蔵紙本著色融通念佛縁起絵巻」『松原市内所在の文化財 総合調査』1-丹南・来迎寺-（松原市教育委員会 2020年）

融通念佛の名帳は、勧進聖良鎮の勧進文によって、当麻寺本尊当麻曼荼羅の瑠璃壇に籠められ「決定往生」を祈ったことが知られる。高橋氏は、文亀二年は、当麻寺では当麻曼荼羅の制作が進められていた時期にあたり（通称「文亀本當麻曼荼羅」）、当時の当麻寺が真言方と浄土方の兼務であったことから、「金剛佛子行慶」は当麻寺の真言僧であり勧進聖であったかと推測する。



①「金剛佛子行慶」署名を手がかりに考える



イ)

ロ)

ハ)

□仁和寺御經藏 行慶付法状 一通

行慶法印印信 十七通

永正10年、11年（1514、1515）

（『仁和寺資料 記録篇・神道篇』名古屋大学比較人文学研究年報 第1・2集、2000年）

イ) は絵巻。文亀2年（1502）の署名

ロ) ハ) は印信。永正10年（1514）の署名



②文亀二年（1502）の出来事から考える

イ) 文亀二年九月二十八日 御土御門天皇三回忌追善仏事

文明12年（1480）、勧進聖宝鎮（嵯峨三宝寺）、宮中にて融通念佛名帳の勧進を行い、御土御門天皇の命により、三条西実隆が名帳に染筆を行う。翌年三月、清涼寺では、禊迦大念佛会が再興される。

ロ) 文明16年（1484）11月1日、勧進聖宝鎮（嵯峨三宝寺）、嵯峨清涼寺 の梵鐘を泉州堺にて鋳造。義政、征夷大將軍義尚、日野富子らが大旦那。泉州堺の人々も多く名を連ねる。

（中村直勝「従一位富子と堺の衆」・川勝政太郎「清涼寺銅鐘と銘文」『史跡と美術』239、1954）

ハ) 義尚、融通念佛縁起絵巻に結縁、詞書を染筆（江戸時代の写しが深大寺にあり）

二) 大念寺所藏伝義尚本融通念仏縁起絵巻(明応6年1497)卷末

来迎寺本と同系

融通念仏勸進往生之祖師之次第

良忍上人 嚴賢上人 明應上人 観西上人 尊永上人 理圓上人

良鎮上人 融鎮上人 宝鎮上人



③松原市の由来から考える

松原市の由来となった「松原庄」は、広隆寺領の庄園で広隆寺庄とも呼ばれる。『広隆寺來由記』によれば、鳥羽法皇によって広隆寺に寄進され、広隆寺領となつた。仁和寺御室覚法が高野山系の折に松原庄を通り、「御室御所高野山御參籠日記」久安4年(1148)条に「到着松原庄近隣有庄」と記されている。



『融通念仏縁起』

鳥羽院 良忍上人の名帳加入（上巻）

諸僧綱に名帳加入を勧める（下巻）

待賢門院（広隆寺の女院）

良忍の念仏を請ける（上巻）

法金剛院にて御願を以て不断念仏始修（下巻）



④諸仏山護念院来迎寺という山号と院号から考える



「諸仏山護念院」は、平安時代、良忍上人の念仏を請けた導衆によって摂津国味原牧に開かれた草堂から始まり、後白河院の勅願により院号が定まったとの由緒をもつ。

上西門院（鳥羽院と待賢門院【広隆寺女院】の皇后。後白河院の姉）から宜陽門院（後白河院の第六皇女）へと受け継がれた。

その名跡が、融通念佛宗總本山大念佛寺の院号「諸仏山護念院」および来迎寺の山号と院号に記憶されている。

(阿部美香「安居院唱導資料『上素帖』について」
『金沢文庫研究』326、2011年)

【参考】

- 伊藤唯真監修『融通念仏信仰の歴史と美術』東京美術、2000年。
- 高岸輝『室町王権と繪画—初期土佐派研究』京都大学出版会、2004年。
- 阿部美香『「融通念仏縁起」のメッセージー和本絵巻の成立の意義をめぐって』(昭和女子大学女性文化研究所編「女性と情報」2012)、御茶の水書房。
- 阿部美香『中世メディアとしての融通念仏縁起絵巻』(説話文学会編『説話から世界をどう解き明かすのか説話文学会設立50周年記念シンポジウム[日本・韓国]』の記録)2013、笠間書院。
- 阿部美香、高岸輝、阿部泰郎、神崎壽弘『懸闇大念佛寺所蔵融通念仏縁起巻資料集成』(『学苑』961号、2020)。
- 福原善隆監修『融通念佛宗における信仰と教義の遷移 開宗九百年・大通上人三百回御遠忌奉修記念論文集』法藏館、2015。